

かなこれんNEWS VOL20号

発行：(一社)神奈川県子ども会連合会
編集責任者：神子連広報部長 宮野 利美
発行日：令和6年3月1日
<http://www.kodomo-kai.or.jp/kanagawa/>

神子連（かなこれん）とは、神奈川県内の各市町村の子ども会の集まりの組織です。
市町村だけでできないような、野外活動や、集団活動、研修活動など様々なイベントを行っています。

令和5年度定時総会・指導者研修会が開催されました

令和5年5月20日(土)スカウト会館にて、令和5年度（一社）神奈川県子ども会連合会定時総会・指導者研修会が開催されました。令和4年度の事業報告、令和4年度収支決算報告ならびに監査報告、神子連年会費改定の議案を審議して頂き承認されました。

指導者研修会では、令和4年11月の会長会において「子ども会の生き残りをかけて、危機感を持って解決策を出し合おう」をテーマに話し合い、今の現状や、新しい試みなどについて意見交換を行いました。良い事も悪い事も出し合い、お互いを知る事で次のステップに進めるのではないのでしょうか。



～市町村子連の現状・これから新しい試みなど～

- ・新入生に「子ども会からの挑戦状」というチラシを作成し、教育委員会から校長会にお願いし、保護者ではなく子どもたちにアピールすることを行っている。
- ・10歳くらいまでに子ども会活動を通して「ふるさとの認識」を培う様にしていきたいという思いから、3年半止まっていたデイキャンプを行う。子どもたちの思い出に残る行事・役員の手間をかけない行事を行ってきたい。
- ・単位子ども会のない地域の子どものため、市子連全体の子ども会を立ち上げ活動を始めた。活動するときの協力員体制にしてお手伝いをしてもらい、地域の取材を行い、ラインなどで活動状況を発信している。
- ・コロナ前と比べると単位会が減ってきているが、自治会に直接交渉して、単位子ども会の負担を軽減できるように働きかけていく。実際にいくつかの子ども会が再加入した。
- ・地域で子どもたちの育成を粘り強くやんわりとアプローチして、「できることを楽しく活動すること」をモットーに子どもたちを遊ばせようと思っている。
- ・地区別子どものつどい（ドッジボール大会）の実施につき、学区体育振興会の協力を得て開催している。
- ・単一子連の行事を開催するにあたり、同一地区の子ども達にも参加を呼びかけ、より多くの子どもたちに参加してもらっている。各子連の経費節減にもつながっている。

＜出席者＞ 横須賀市子連、三浦市子連、葉山町子連、藤沢市子連、茅ヶ崎市子連、伊勢原市子連、湯河原町子連、大和市子連、座間市子連
綾瀬市子連、厚木市子連

全国子ども会連合会・神奈川県子ども会連絡協議会表彰

■令和5年度 公益社団法人全国子ども会連合会表彰

＜個人＞ 早川 晴子（綾瀬市）

■令和5年度 神奈川県子ども会連絡協議会永年功労者表彰

＜個人＞ 遠藤 浩太・清水 夕子（茅ヶ崎市）／大館 昭一・奥田 七代・相原 浩一（厚木市）／
根来 由美子・坂崎 英子・藤村 智子・藤田 里江子（大和市）

🎀 おめでとうございます 🎀

（敬称略）

（一社）神奈川県子ども会連合会年会費改定について

令和5年5月20日の定時総会において、神子連年会費を300円から400円（安全共済会掛金70円を含む）に改定することを提案し、ご承認いただきました。（令和6年度より実施）

会員が減少する中、基金（準備金）を取崩して補填していますが、基金の残額にも限度があり少なくなっています。

以前から、理事と事務局が一体となって費用節減に努めてきました。今後も神奈川県子ども会連合会存続のため努力してまいりますので、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。



令和 5 年度 指導者養成部会の活動より



■マジックショー & マジック研修 ～子どもたちに、わくわくドキドキ体験を届けよう～

令和 5 年 11 月 18 日(土) 横須賀市青少年会館にて、マジックショーとマジック教室の研修会を開催しました。

マジックサークル『マジシャンズ ムツアイ』より講師をお迎えして、県内の指導者、育成者、ユースリーダーが参加しました。

前半は『マジシャンズ ムツアイ』のメンバーによるマジックショー。プロレベルの華麗なマジックに参加者から「どうして?」「なんで?」などの声が何度も飛び交いました。2, 3メートルという近いところから見ていても、タネを見破ることができない高度な技術を伴った素晴らしいマジックショーを楽しみました。



後半は、マジック教室として、ハンカチを使った手のひらからお菓子が消えるマジック、トランプを立てかけたボールが消えるマジック、紙コップとピンポン玉を使い、これもピンポン玉が消えるマジックを参加者が体験しました。



講師の方から、手順や動作などの説明を受けたあと、参加者が実演したのですが、頭で理解しても、指が動かず、動作が伴わず、多くの参加者が悪戦苦闘していました。

マジックは多くの練習を積み重ねないと技術は得られないと感じました。やってみて、検証して、改善することが大切だという講師からのアドバイス、観客とのコミュニケーションで気持ちを引きつけたり、そらしたりしているというお話もあり、マジックに限らず色々な活動に活かしていけることだと思いました。また、種明かしを知った時に「なるほど、そうだったのか」という驚きや初めて知ることでも体験できたマジックショー & マジック研修でした。

『マジシャンズ ムツアイ』

藤沢市を中心に 30 年以上活動が続けている、マジックサークル『マジシャンズ ムツアイ』。毎月 2 回の例会に加え、ボランティア活動として、幼稚園や保育園、子ども会、中学校イベント、老人ホームや地域のお祭りなど年間 100 回近くマジックショー・マジック教室を行っています。

見学・入会をご希望の方、マジックショーの依頼をご検討の方はマジシャンズ ムツアイのホームページにて詳細をご覧ください。 <https://magicians6.jimdofree.com>



■バルーンアート研修会



令和 5 年 12 月 3 日(日) 藤沢市秩父宮記念体育館にて、バルーンアート研修会を開催しました。藤沢市子連の役員をはじめ藤沢市内の単位子ども会から親子でのご参加、その他県内の指導者やユースリーダーといった様々なメンバーが参加しました。

参加者は 4 つのグループに分かれて、まずは 1 人で作る花や蜂の作り方から教わりました。バルーンの口を結ぶのに苦労したり、割れないかとビクビクしながらふくらませたバルーンをねじったり、ややぎこちない手つきではありましたが、それぞれの作品を完成させることができました。

慣れてきたところで、今度はグループで協力して作る作品に挑戦しました。細長いバルーンを使ったチェーン飾りから、丸い風船を使った大きな花とボール、両方を組み合わせて作るバルーンドールまで、色々なパターンのものを作りました。バランスよく作るために皆が同じ大きさにふくらませるなど、グループ内でコミュニケーションを取りながら、無事完成できました。同じものを作ってもグループごとに個性があって、お互いに鑑賞しあって和気あいあいとした時間になりました。

《参加者の感想より》

- ★はじめてバルーンを作りました。難しいというより、こわーい、でしたが、楽しい時間でした。
- ★一人で作るのも楽しいけど、チームで協力して作り上げる作品は会話もあり、完成を楽しみにワクワクした気持ちで取り組めたので良かったです。
- ★とっても楽しかったです。子ども会のイベントで飾りたいと思いました。丸い風船でも作れるものがあって、おうちの風船で作ってみようと思いました。
- ★今回の作品は、かんたん！かわいい！出来も大きくて遊べてすごーいいな、と思いました。
- ★先生の盛り上げ方、説明の仕方も大変参考になりました。バルーンもグループで製作すると楽しみが倍になることがわかりました。



1/29 県立青少年センター子どもフェスティバルにて
ユースリーダーがバルーンで作った大きなアーチやポールで
来場者を迎えました

関東甲信越静地区ジュニアリーダー大会に参加して

令和 5 年 8 月 4 日～6 日・国立妙高青少年自然の家（新潟県）

関東甲信越静地区子ども会連絡協議会に加入している 10 県が毎年交代で開催しているジュニアリーダー大会に、引率のユースリーダー 3 名のうちの 1 人として、県内のジュニアリーダー（中高生）6 名、指導者 1 名とともに参加してきました。

一度に複数の県のジュニアリーダーと交流する機会はなかなかないため、それぞれの地域でのリーダー活動の違いやレクゲームの違い、また自分から積極的に関わっていくことの大切さなど、ジュニアリーダーたちは大いに刺激を受け、たくさんのことを学んだようでした。

令和 7 年度は神奈川県で開催します。今回、引率者として参加してプログラム企画や運営方法などを見て、神奈川でやるならどんなことをどんな風にやれば、楽しく有意義な内容を安全かつ円滑に運営できるかを考えるヒントをもらってきました。

ジュニアリーダーの皆さん、令和 7 年の神奈川大会を楽しみにしててください。

県子連ユースリーダーズクラブ代表 山本 啓人





わたしたちの子ども会活動

清川村子ども会連絡協議会



清川村子ども会連絡協議会
会長 青木 高人

清川村子ども会連絡協議会 夏の恒例行事「防災キャンプ」についてご紹介します

■夏の思い出づくりのひとつとして

令和5年7月8日から1泊2日で、防災キャンプを開催しました。2019年の夏、ちょうどコロナ禍となる直前から、防災キャンプという名称としてスタートを切ったイベントです。それまでも子ども会主催のキャンプは行っていましたが、子どもと大人が協力しあって昼夜を共にできる貴重な機会に、更なる意義を持たせるために「防災」というキーワードと手指を加え、コロナ禍にも負けずに続けています。

■子ども会の防災とは

清川村は山林に囲まれ、清流に恵まれている地域であるとともに、風水害や大地震など災害がひたび発生すると、その恵みが牙を剥いてくる、そんな地域です。また、人口が少ないことから自助共助の意識を強く持ち、そういった状況に立ち向かう心がけも大切です。

子ども会による防災は、そういった地域の特性や心がけを子どもたちに伝え、体感してもらい、地域防災の理念を醸成していくことを目的としています。



■各所のご協力による充実した内容

防災キャンプ1日目は土曜日にセットし、朝から夜まで多様なイベントを盛り込んでいます。

午前中はバーベキュー、ここで火や食材を子どもたちが直接扱い、自分たちのご飯を用意する楽しさと共に、災害時にも火を起こし食事を作ることが出来るという事を学びます。



午後は川遊び、その前にK Y T（危険予知トレーニング）を行います。遊びの中に危険が多くあることを意識することで事故を防ぐ、災害時にもそういった意識が持てるようにします。また、ここでは消防団に協力を要請し、K Y Tの実施と川遊び中の安全管理にご協力を頂いています。

夜はいよいよ防災色を強め、夕飯はアルファ米とレトルト食品、防災絵本の読み聞かせが終わったら体育館の中でテントを張り、就寝します。災害時の避難場所をイメージした夜間活動になりますが、清川村おやじの会や自治体にもご協力を頂いて、子どもたちは楽しみながら夜を過ごします。

2日目は子どもも大人も疲れが出てきますが、朝はラジオ体操、そこから毛布担架づくりの体験をします。ここでも消防団にご協力を頂き、子どもだけでも大きい大人が運べる、そういう体験をしてもらいます。



■子ども会の目玉イベントとして継続

昨今は子供の数が減って、子ども会の存続が危ぶまれる声も聞こえてきており、子供と大人役員の確保は非常に大きな課題と言えます。そういった課題の方策として、この防災キャンプは重要な役割を担っています。

子供も大人と一緒に楽しみつつ勉強にもなる、そのような貴重な機会として、今後も続けていきたいと思っています。